

正誤表

■日本心理学会企画学会シンポジウム

- JPAS-012 公認心理師の大学・大学院での養成をどのようにすべきか

誤：

[企画代表者, 指定討論者, 司会者] 丹野 義彦(東京大学), [企画者, 司会者] 横田 正夫(日本大学), [企画者] 鈴木 伸一(早稲田大学), [話題提供者] 得津 馨#(厚生労働省精神・障害保健課課長), [話題提供者] 箱田 裕司(京都女子大学), [話題提供者] 熊野 宏昭(早稲田大学), [話題提供者] 長田 久雄(桜美林大学), [話題提供者] 小関 俊祐(桜美林大学), [話題提供者] 岩原 昭彦(京都女子大学), [話題提供者] 大月 友(早稲田大学)

正：

[企画代表者, 指定討論者, 司会者] 丹野 義彦(東京大学), [企画者, 司会者] 横田 正夫(日本大学), [企画者] 鈴木 伸一(早稲田大学), [話題提供者] 島田 隆生#(厚生労働省 公認心理師制度推進室 公認心理師専門官), [話題提供者] 箱田 裕司(京都女子大学), [話題提供者] 熊野 宏昭(早稲田大学), [話題提供者] 長田 久雄(桜美林大学), [話題提供者] 小関 俊祐(桜美林大学), [話題提供者] 岩原 昭彦(京都女子大学), [話題提供者] 大月 友(早稲田大学)

■大会シンポジウム

- IS-016 「アジア太平洋心理学連合」 発足記念・日本心理学会常務理事会共催企画
アジアの心理学の現状

誤：

2019-09-13 15:40-17:40
第3会場 AC130

正：

2019-9-11 13:20-15:20
第18会場 AS262

■公募シンポジウム

- SS-003 心理学研究における構造方程式モデリング (SEM) の役割とピットフォール (2)

誤：

[企画代表者, 話題提供者] 伊藤 大幸(中部大学), [話題提供者] 谷 伊織(愛知淑徳大学), [話題提供者] 行廣 隆次(京都先端科学大学), [話題提供者] 坪田 祐基(中部大学), [話題提供者] 高田 佳輔(中京大学), [指定討論者] 村上 隆(中部大学), [司会者] 平島 太郎(中部大学)

正：

[企画代表者, 話題提供者] 伊藤 大幸(中部大学), [話題提供者] 谷 伊織(愛知淑徳大学), [話題提供者] 行廣 隆次(京都先端科学大学), [話題提供者] 坪田 祐基(愛知学泉大学), [話題提供者] 高田 佳輔(静岡県立大学短期大学部), [指定討論者] 村上 隆(中京大学), [司会者] 平島 太郎(愛知淑徳大学)

● SS-005 感情研究の広がり と 深さ

誤 :

[企画] 日本感情心理学会・日本心理学会連携企画, [企画者, 司会者] 内山 伊知郎(同志社大学), [企画者, 話題提供者] 有光 興記(関西学院大学), [話題提供者] 武藤 世良(お茶の水女子大学), [話題提供者, 司会者] 中村 真(宇都宮大学), [指定討論者] 鈴木 直人(同志社大学), [指定討論者] 樋口 匡貴(上智大学)

正 :

[企画] 日本感情心理学会・日本心理学会連携企画, [企画者, 司会者] 内山 伊知郎(同志社大学), [企画者, 話題提供者] 有光 興記(関西学院大学), [話題提供者] 武藤 世良(お茶の水女子大学), [話題提供者, 司会者] 中村 真(宇都宮大学), [指定討論者] 樋口 匡貴(上智大学)

● SS-077 アサーション (自他を尊重した自己表現) の現在とこれから

誤 :

[企画代表者, 話題提供者] 三田村 仰(立命館大学), [話題提供者] 菅沼 憲治(松陰大学), [話題提供者] 遊佐 安一郎#(長谷川メンタルヘルス研究所), [話題提供者] 井合 真海子(長谷川メンタルヘルス研究所), [指定討論者] 平木 典子(統合的心理療法研究所)

正 :

[企画代表者, 話題提供者] 三田村 仰(立命館大学), [話題提供者] 菅沼 憲治(松陰大学), [話題提供者] 遊佐 安一郎#(長谷川メンタルヘルス研究所), [話題提供者] 井合 真海子(長谷川メンタルヘルス研究所), [指定討論者] 平木 典子(統合的心理療法研究所)

■ 一般研究発表

発表取消によるプログラム・論文集からの削除

2D-069	仔ウマの親和的關係の形成に母ウマが及ぼす影響
--------	------------------------

■ 一般研究発表

● 1A-073 生きがい感スケール作成方法についての新しい提議

	(誤)	(正)
今後の課題	このスケールとしての検討もおこなっておくことは今後の課題として最善であろうと考えられる。	このスケールの妥当性を検討しておくことも必要であろう。たとえば11項目での得点と図1, 2で求められた数値との相関係数をハシゴ状の階段数で得られた数値の相関係数と比較してみることも検証の1つであろう。
図2の枠内	あなたは生きがい感を持って生活感を持って生活しておられますか？	あなたは生きがい感を持って生活しておられますか？

● 1D-069 学生の養護性, 自由選択の感覚と幸福および健康の関連

	(誤)	(正)
結果	その結果, 男性の精神的不健康 ($R^2 = .11$, $p < .01$) の場合は非受容性 ($r = .26$, $p < .01$) および自由選択の感覚 ($r = -.16$, $p < .05$), 男性の人生満足感 ($R^2 = .14$, $p < .01$) の場合は自由選択の感覚 ($r = .30$, $p < .01$), 準備性 ($r = .30$, $p < .01$) が残った。一方, 女性の精神的不健康 ($R^2 = .06$, $p < .01$) の場合には自由選択の感覚 ($r = -.25$, $p < .01$), 女性の人生満足感 ($R^2 = .14$, $p < .01$) の場合にも自由選択の感覚 ($r = .37$, $p < .01$) が残った。	その結果, 男性の精神的不健康 ($R^2 = .11$, $p < .01$) の場合は非受容性 ($\beta = .26$, $p < .01$) および自由選択の感覚 ($\beta = -.16$, $p < .05$), 男性の人生満足感 ($R^2 = .14$, $p < .01$) の場合は自由選択の感覚 ($\beta = .30$, $p < .01$), 準備性 ($\beta = .30$, $p < .01$) が残った。一方, 女性の精神的不健康 ($R^2 = .06$, $p < .01$) の場合には自由選択の感覚 ($\beta = -.25$, $p < .01$), 女性の人生満足感 ($R^2 = .14$, $p < .01$) の場合にも自由選択の感覚 ($\beta = .37$, $p < .01$) が残った。

● 2D-062 ラットにおけるストレスレジリエンスと不安様行動・強迫様行動の関連

誤:

[責任発表者] 上野 将玄(筑波大学), [連名発表者・登壇者] 山田 一夫(筑波大学), 一谷 幸男(筑波大学)

正:

[責任発表者] 上野 将玄(奈良県立医科大学), [連名発表者・登壇者] 山田 一夫(筑波大学), 一谷 幸男(筑波大学)

● 3C-044 事象関連電位 P300 による能動的注意制御機能測定を試み

誤:

[責任発表者] 朴木 優斗(早稲田大学), [連名発表者・登壇者] 管 思清(早稲田大学), 高橋 徹(早稲田大学), 仁田 雄介#(早稲田大学), 小口 真奈(早稲田大学)

正:

[責任発表者] 朴木 優斗(早稲田大学), [連名発表者・登壇者] 管 思清(早稲田大学), 高橋 徹(早稲田大学), 仁田 雄介#(早稲田大学), 小口 真奈(早稲田大学), 熊野宏昭#(早稲田大学)

● 3D-024 コンパッショントレーニングが慈悲への恐れに与える影響に関する文献レビュー

誤:

[責任発表者] 内田 太朗(早稲田大学), [連名発表者・登壇者] 仁田 雄介#(早稲田大学), 高橋 徹(早稲田大学)

正:

[責任発表者] 内田 太朗(早稲田大学大学院人間科学研究科), [連名発表者・登壇者] 仁田 雄介#(早稲田大学大学院人間科学研究科), 高橋 徹(早稲田大学大学院人間科学研究科), 熊野宏昭#(早稲田大学人間科学学術院)